創立1880年
YMCA
東京YMCA
2007 4月号
発行所　東京キリスト教青年会　発行人　新井廣和
135-0016　東京都江東区東陽2-2-20　電話　03-3615-5562
URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京ＹＭＣＡの使命
東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

いのち輝く子どものために

…愛される実感を我が子に…

少子化が進む現代の日本。子どもたちを取りまく環境は日々変化し、保護者からは子育てにおいて、迷いや悩みを訴える現実がある。

「いのち輝く子ども」の未来のため、私たちはどうすればよいのか。キリスト教保育の専門家・新澤誠治氏に〝子育てのエッセンス〟を伺った。

子どもを祝福されたイエス

私は東京ＹＭＣＡを通してキリスト教に出会い、それ以来、50年にわたりキリスト者として保育や子育ての支援事業の仕事に携わってきましたが、その間、私の保育観の土台となり、心を突き動かしてきた〝聖書のことば〟があります。

子どもを祝福されたイエスのマルコによる福音書第10章13～16節の話です。

「イエスに触れていただくために、人々が子供たちをつれてきた、弟子たちはこの人々を叱った」とあり、子どもを追い払おうとしたときに、イエスはその弟子たちを叱り、こどもたちを呼び寄せ、「神の国はこのような者たちのもの」と言われ、子どもを抱きあげ、祝福されたということです。

子どもを拒否した弟子たちにとって、子どもは、よい子、賢い子とみるより、腕白な子、泣き虫な子、手のかかる、困った子どもたちに映っていたのではないかと思います。しかし、イエスは、「私のところにきなさい」と招き、その子たちを受容するよう〝抱き上げ〟られて「よき子」と祝福されたのです。

愛の源泉が乾いた社会

いま、現実の子どもは、「いじめる子たち」がいて、そのために自殺にまで追い込まれる子どもがいます。何故！と心の中で叫ぶことが度々ありました。また、保育の世界で「キレル、荒れる子」「笑わない赤ちゃん」「甘える子」「友だちと生き生き遊べない子」と気にかかる子が増えてきて心を痛めます。

気にかかる子どもとは、いじめる側にいる子を含めて、問題の子どもでなく、心の中に困ったことを抱えた子、救いを求めてSOSを発している子どもたちだと思います。

いま、都市化が急速にすすみ、人と人、子どもと大人の「つながり、ぬくもり」を欠き、自然やすぐれた文化と関係も希薄になり、関係不全と無機質な社会と砂漠化がすすんできました。

同時に「競争の原理」が子どもの教育に、家庭に、地域に反映して、子どもへの価値判断が「よい子、悪い子」「できる、できない子」で支配され、「ありのままのあなたが好き」ということが言いにくくなりました。

その結果として、「困った子」と冷たい目でみられることもあり、心にストレスをため、愛で心を満たされる経験も少なくなる。

自尊感情、自己肯定感がもてずに、充分に自己発揮することもできず、心と身体に生気をもてないできているのではないかと危惧しています。

突き詰めると、砂漠で水が乾くように、子どもを取り巻く環境がやせ細り、愛の源泉が渇いた社会になり、子どもの心にも砂漠のような飢え渇きが生じているのではないかと思います。いじめを受けた被害者もいじめる加害者もこの愛の渇き、管理社会の犠牲者なのだと思います。

「祝福のシャワー」を！

いま、子どもが求めているのは、何より親から、大人から愛されている実感だと思います。親と子の愛着行動を基盤としつつも、地域で保育園や幼稚園、ＹＭＣＡの行われている保育事業の中でも、すべての子を肯定的にみる、やさしい承認のまなざしと、笑顔で声と手が指しだされる愛が求められていると思います。

みんなでいのちの誕生と成長を喜び、「おめでとう」とみんなで祝い、子どもの成長や行動を温かく見守り、少し困った行為をする子であろうと、「でも！あなたはいい子」「でも！あなたを好きだ」と声をかけ、手をさしだすことではないか。それを私は「祝福のシャワー」と言っています。

新澤氏による研修を受ける保育士

キリスト教保育とは、この祝福のシャワーをいっぱい子どもに浴びせることではないかと思うのです。そこから出発して、子どもの最善の環境を作り出してくことだと思うのです。

子どものいのちの輝き

東京ＹＭＣＡには五つの保育施設と一つの幼稚園、そして学童クラブ等があり、今春、新たに「港区立芝浦アイランドこども園・児童高齢者交流プラザ」の運営がはじまります。その基本目標にＹＭＣＡの精神を受けて、Ｓｐｉｒｉｔ（豊かな心）Ｍｉｎｄ（確かな知性）Ｂｏｄｙ（健やかな身体）を掲げています。

私は長い歴史と伝統から生まれたすばらしい目標だと思っています。その根幹には、保育そのものに愛の源泉を豊かにたたえ、その愛に子どもが包まれることでないでしょうか。

そこで子どもは愛されている実感をもち、自分を好きになり、自分を信じ、人を信じ、友だちと仲良く遊び、自己発揮をして、「いのちが輝く子ども」になっていくのだと思います。

キリスト教保育とは、冒頭に挙げたような聖書の中に描かれたイエスの姿や言葉に学び、保育者も親も神様の愛を背にして、子どもを抱きとめ、祝福のシャワーをおくり、愛を注ぐ行為だと思います。

この愛をいっぱい受ける体験をして、子どもが人間として育つ土壌が耕され、その豊潤な土の中に力強く根をはり、大きな幹となり、枝をはり、葉を茂らせ、人を思いやり、人に癒しと希望を与え、平和に貢献できる、そんな人間になっていくのだと思います。

またそうした願いを祈りとした保育を、家庭教育を創造してほしいと思うのです。

新澤 誠治
子育てひろば推進センター「みずべの会」代表／東京ＹＭＣＡ社会体育・保育専門学校講師／港区立芝浦アイランドこども園・児童高齢者交流プラザ相談役などを務める

＝２期目を迎えて＝ ＹＭＣＡを必要とする人々のために

総主事　新井廣和

それから、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」（マルコによる福音書第16章15節）

百二十六年前に福音を宣べ伝えるものとして、また神の言葉を聞いて実践するために日本で初めて創られた東京ＹＭＣＡは、多くの人々に守られ、育てられ現在に至りました。

諸事情の中で、突然総主事の任を受けた私は「土の器」であるとの自覚のもと、共に前進することを約して下さった会員・職員の皆様と歩んでまいりました。その道は多くの試練と隣り合わせでありましたが、２００６年度には関わる全ての人々の努力により、当初の目標を達成できたことは感謝すべきものであります。

地域社会の中で、弱い立場におかれた人々と共にあった会員部の働きは誇るべきものであり、会員一人ひとりのその働きを思う時、その支えは千人分のつねりとなりました。入学促進室の働きは学校の基盤を確かなものとし、企画開発室は、行政・民間団体と具体的に協働する形を従来以上に明確なものとしました。

総主事として引き続き第２期を担当することを求められ思うことは、東京ＹＭＣＡの全ての部署・センターは私たちの働きを必要とする人々のためにあり、夢と希望の持てる市民社会を作ることであります。新年度にあたり、東京ＹＭＣＡの働きを、東京だけでなく全世界に広げていきたいと考えています。

港区立芝浦アイランド

こども園　**児童高齢者交流プラザ**

＝本格幼児教育と世代間交流を促進＝

港区立芝浦アイランドこども園・児童高齢者交流プラザ（公設民営・指定管理者＝東京ＹＭＣＡ）で、３月28日に開所式及び内覧会が行われ、４月１日には全館オープンした＝写真。

児童高齢者交流プラザのオープニングイベントでは、近隣に住む地域住民など５００人余りが来館、賑やかなスタートとなった。

児童高齢者交流プラザ（３、４階）は、児童の健全育成活動や高齢者のいきがいづくり、世代間交流を促進する目的で運営される。

具体的なプログラムとして子どもたちを対象に、粘土細工・インターネット体験・ビーズアート・絵手紙づくりなどを企画、高齢者を対象に室内ゲートボール・介護予防教室・手芸・フットバスコーナーなどを予定している。

またこども園（１、２階）では４月７日に入園式が行われ、０歳から５歳までの乳幼児を対象に保育が始まった。認可保育園と幼稚園教育要領に準じた幼児教育の本格的実施となる。

詳細はオフィシャルホームページをご覧下さい。

（編）

「港区立芝浦アイランドこども園・児童高齢者交流プラザ」オフィシャルＨＰ
http://www.shibaura-plaza.com

＝公　示＝

第５回会員大会

日　時：2007年５月26日（土）　13:30～17:00
場　所：東京ＹＭＣＡ東陽町センター
■お問合せ：会員部　ＴＥＬ　03―3615―5568

赤▽三角

招集、点呼、召し、使命感、強い衝動、天職、そして職業。これらすべて辞書に出てくる英語「Ｃａｌｌｉｎｇ」の訳語。まさしくキリスト教的表現で、神からの呼びかけに対して、我々人間がどのように応答していくかという人生の一面をあらわす。▼新約聖書には「私の食物というのは、私を遣わされた方（神）の御心を行い、その御業を成し遂げることである」と、イエスが言葉を残している。天から与えられた使命、役割を行うことが、人間にとっての本当の生きる糧、意味ということになろう。▼例年になく早い春一番が吹いた２月、神からの使命を最後まで全うし続けようとしたＴＹＩＳ・奈良昴校長が、76年の生涯を終え、天に召された。まるで新しい春を見届けていったかのように、静かにデスクを残していった。▼学生ＹＭＣＡから神学校を経て東京ＹＭＣＡに。学生や社会人の英語教育に力を尽くされた。そして２年前から国際学校の認定のためにハードな職務を引き受けられた。▼先日お宅を訪問し、ご夫人と話をした。来年で金婚式を迎えるはずだった。「結婚式の誓約を最後まで守り通した人でした」と語った。家庭においても、職場においても、ただ自らに与えられた使命に生き通した人物の生涯に触れた気がした。これからも毎朝、聖書から自らの使命を確認して、生きていきたいと思う。

（インターナショナルスクールＴＹＩＳ　金子恒一）

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。